

令和3年 **4**月の大阪森林便り

目次

今月の木の話 **和泉葛城山のブナ林**

- (1)  カナダ産製材品 最高値 4~6月対日価格 米で需要旺盛
- (2)  広がる「ナラ枯れ」被害 木材有効利用で「治療」
- (3)  輸入合板 一段高に 原木不足 国内在庫が大幅減
- (4)  米松製材品 値上がり 東京卸値 1年4か月ぶり高値



今月の木の話

和泉葛城山のブナ林

*和歌山県と大阪府の境界の岸和田市と貝塚市にまたがるブナ林は、大正12年に国の天然記念物に指定されました。

*ブナは、ブナ科ブナ属。日本ではブナとイヌブナの2種が北海道の南部、本州、四国、九州に分布。

*月平均気温10℃以上が1年のうち4~6か月続く地域でないと育ちません。
土壌環境等も含めると生育条件は非常に繊細な樹木。

*世界的にみると北半球の中緯度のところに分布。

ヨーロッパ、アジア、北アメリカの同じような条件の所に9種が分布。

*ブナ林は有効な土壌、微生物を生み、流れ出た水は豊漁の海を育てます。

(2008年発刊 (社)大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用)



(1) **カナダ産製材品 最高値**

4~6月対日価格 米で需要旺盛

- *カナダ産製材品の対日価格が2四半期連続で最高値を更新。
 - *SPF（トビ・マツ・モミ類）材の4~6月期価格は、3四半期連続の上昇。
これまでの最高値だった前四半期より37%高。米国市場の値上がりに連動。
 - *米国では昨夏から住宅需要が旺盛で、住宅用木材の高騰が続いています。
 - *輸入は減っています。1月のSPF材の輸入量は、前年同月比10.8%減。
過去5年間で最低。
 - *米国では、金利上昇を踏まえても、コロナ禍の地方への住み替え需要による住宅着工増は続くとの見方。
 - *対日価格はさらに上昇するとの見方も。
 - *SPF材以外の木材も軒並み値上がり。
- (2021年3月3日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(2) **広がる「ナラ枯れ」被害 木材有効利用で「治療」**

- *ナラ類やシイ・カシ類などのブナ科の広葉樹が集団で枯死する「ナラ枯れ」の被害が近年広がっています。
 - *糸状菌（カビ）が引き起こす伝染病で、樹木は根から水を吸い上げる機能を失って枯死します。
 - *ナラ枯れは夏から秋にかけて、山腹の広葉樹林が突然赤や褐色になって景観が一変。
 - *1980年代以降、被害拡大が続き、2020年度は42都府県で確認。
 - *被害材量は前年度の約3倍、過去10年でも最多の185,000M³に。
 - *標高の比較的低い森林の老齢の大径木に目立ち、高温少雨の年ほど被害が多い傾向。
 - *中山間地の林が放置され、大木に育ってしまった事情もあります。
 - *水源涵養機能を低下させて、大雨に伴う土砂崩れなどにつながる恐れがあります。
 - *伐採して萌芽更新させ、森を若返らせるのが上策。
 - *放置して巨木化しナラ枯れを起こす「負のサイクル」を断ち切り、伐って加工し販売する本来の森林資源の循環を。
- (2021年3月8日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) **輸入合板 一段高に 原木不足 国内在庫が大幅減**

* 輸入合板の価格が一段と上昇。

* コンクリート型枠用合板は前月に比べて 1.6%高。対日価格が上昇。

* 構造用合板も 1.6%高。

* 普通合板も 3.4%高。

* 主産地のインドネシア・マレーシアでは、雨期で原木が不足。

コロナ禍の移動制限で人手が足りず、工場がフル稼働できません。

* 現地メーカーは、住宅着工が旺盛で需要が強い米国向けに高値で販売。

* コンテナ不足による海上運賃上昇も。

(2021年3月10日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(4) **米松製材品 値上がり**

東京卸値 1年4か月ぶり高値

* 米松製材品の流通価格が一段と値上がりし、1年4か月ぶりの高値に。

1か月前より 5.5%上昇。

昨年冬の安値からは 11.7%高くなりました。

* 米国の旺盛な住宅需要の影響で引き合いが増え、対日価格が上昇。

* 新型コロナウイルス禍に伴う物流の混乱で、コンテナ船が不足した余波で丸太を運ぶばら積み船の引き合いが増え、海上運賃も上昇。

* 集成材も原料の引き板材「ラミナ」の輸入価格が、運賃高もあって上昇。

(2021年3月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

